

巻頭言

「龍」と「辰」

龍谷大学図書館長

竹内 真彦



ことさらに言うまでもなく、日常にはさまざまな「謎」が潜んでいます。普段せわしなく動き回っている私たちは、そのほとんどに気づくことさえなく日々を過ごすわけですが、今回はそのような「謎」の一つについて考えてみましょう。

今年(2024 年)は「辰(たつ)」年です。これに、動物として(空想上の動物ですが)「龍」を当てるのは、読者諸兄ご存じの通りですが、それは「なぜ」でしょうか？

実は、この疑問に対する「解」は現在に至るまで得られていません。「十二支」にネズミから始まる動物を当てるのは競走の結果なのだ(そしてネコはネズミに騙されて脱落したのだ)、という説話は多くの方がご存じかと思いますが、これは十二支と動物を対応させるようになってから生み出された説話であり、この説話にそって「辰」と「龍」が対応したわけではないのです(タイやベトナムではウサギの代わりにネコが入るのも、この説話が後付けであることの証拠となるでしょう)。

しかし、「辰」と「龍」がいつ対応したのか？ という「謎」についてはある程度の「解」があります。中国の王充(西暦 27-97?)という人物の著した『論衡』という書物が、現在発見されている最古の例と言えます(十二支と動物を対応させることはさらに3百年近く遡ることができますが、その資料では「辰」が何に対応するかは不明です)。

ちなみに、「子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥」という十二字を一

組とすることはさらに古く、今から3千年以上前に用いられていた甲骨文字の時代から存在していたことが確認されています。しかし、その時代は動物と結びついていただけではありません。

年賀状に象徴的に現れるように、現代日本でも「十二支」は動物と不可分のものとして理解されていますが、元々は結びついていなかったわけです。

ここに新たな「謎」が生まれました。それでは、「十二支」と動物は「なぜ」結びついたのでしょうか？(本稿ではこの問題については深入りしません)

「謎」が「謎」を呼ぶ。推理小説のオビではありませんが、大学における「学び」では、しばしばこのような状況に出逢います。大切なのは、その「謎」の「解」を求める主体は誰でもない自分なのだという感覚です。そして、図書館は「解」を求めるための大いなるアシスタントとなってくれます。

そもそも、ここまで私が書き進めて来たことも鵜呑みにすべきではないのかも知れません。本当にタイやベトナムではネコが入るのか？ 王充の『論衡』という書物は本当にあって、あったとしても「辰」と「龍」の関係はどこに書いてあるのか？ 是非、図書館へ足を運んで確認してみてください。

最後にもう一つ「謎」を。「龍谷」の「龍」はどうして「龍」なのでしょうか？

Ryukoku University



Library News

龍谷大学図書館報 来・ぶらり

CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 学生に薦めたいこの一冊
- 04 貴重資料の授業利用について
- 06 瀬田図書館ミニ展観
- 08 ライブラリーサポーターのこの1年

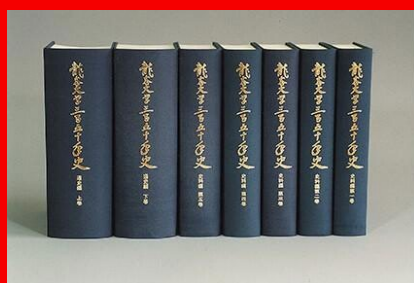
TOPICS

龍谷大学の歴史を知りましょう

龍谷大学は、1639 年に西本願寺の境内に設置された「学寮」をその淵源としています。在学生の方は学生手帳で概要を知ることができますが、大学のホームページ、とりわけ図書館ホームページ内からも知ることができます。

図書館ホームページ「図書館案内」に大学史のカテゴリーがあります。以下からアクセスできます。

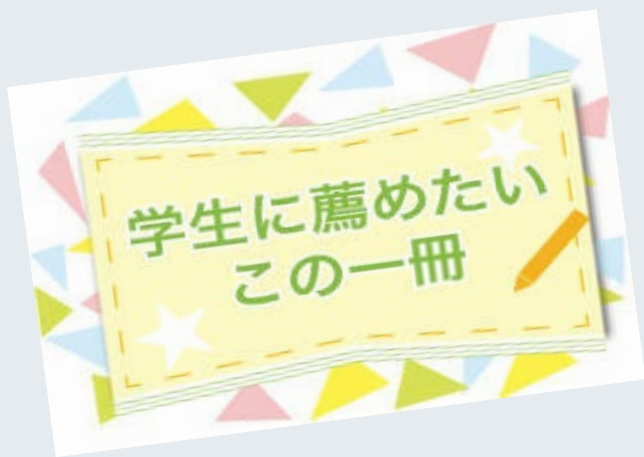
<https://library.ryukoku.ac.jp/Guide/page/426>



卒業生の方々も懐かしく思い返すことが出来る機関誌「龍谷大学史報」を毎年度1回(3月中旬頃)に Web 版で発行しています。

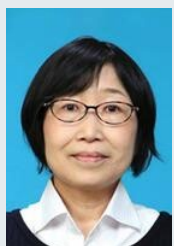
上記の Web サイトから御覧ください。

龍谷大学の歴史を調べる際、優良な資料となるのは『龍谷大学三百五十年史』です。本学図書館各館に収蔵していますので、御覧ください。



『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた:あなたがあなたらしくいられるための29問』

佐藤文香[監修]、一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同[著]、
明石書店、2019年



専門家によるジェンダー入門書は多数出版されていますが、本書は、大学生が中心となってまとめた入門書です。取り上げられている問いは、私たちに身近なものばかりで、初心者・中級者・上級者向けの回答が各々の問いに示されています。資料に基づき客観的かつ丁寧に語り掛ける文章は読みやすく、ジェンダー研究のゼミの熱気が垣間見られます。また、「自分がなにに縛られて生きているのかを理解することで、これまで感じてきた『生きづらさ』を解消する道を探ることができるようになります」(序論より抜粋)とあるように、思わぬ気づきを与えてくれる本でもあります。

文学部 教授 水尾文子

瀬田図書館
瀬田本館 1F 開架
367.2/ヒトシ
資料番号 31905021141

『汝、星のごとく』

風良ゆう[著]、講談社、2022年



マイノリティへの強く優しい思いが伝わってくる1冊である。今の世の中は、差別や偏見をなくそうという声であふれている。メディアでは、それに同調するような発言が続いている。自分もその声に普通に同調する。そんな社会の一員として無難に日常をこなして、自分の中の差別や偏見から目をそむけて暮らしていないだろうか。もちろん、そんな自分を否定する必要はない。ただ、目の前にいる人の生きざまを無条件に尊重できる、そんな生き方を考えてい人にお勧めしたい。

心理学部 教授 赤津玲子

瀬田図書館
瀬田本館 B1 開架
913.6/ナユナ
資料番号 32305003066

『ジェンダー格差:実証経済学は何を語るか』

牧野百恵[著]、中央公論新社、2023年



男女格差がなくなる原因はなんだろうか。著者は南アジアの女性の教育や労働参加の現場に入り込み、女性の地位向上政策の効果を実証経済学という手法で分析を重ねてきた。最先端の学術的議論をベースに、男女格差が続く原因として本書が示したのは、歴史的に形成された「女性らしさ」という「規範」と、それをベースに家庭、学校、職場、市場等が複雑に入り組んだ制度の中で、男女ともが自ら縛られているという現実である。一方、強固に見える「規範」だが、その変わりやすさも指摘する。客観的な分析の重要性がわかる好著。

経済学部 教授 大原盛樹

深草図書館
深草文庫・新書
081/チユウ/2768
資料番号 12300024751

『想像ラジオ』

いとうせいこう[著]、河出書房新社 2013年



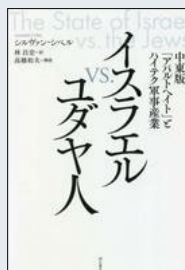
本書は、東日本大震災の津波で流された主人公が、樹上に引っかかったままDJとしてラジオの放送をするという、奇想天外な小説である。本書のメッセージは単純だ。私たちはいつの間にか死者の声を聴くことを忘れてしまった。しかし私たちはいつだって、死者と手を携えて前に進んできたのではなかったか。とはいえ、本書は決して重く暗い小説ではない。「想像ラジオ」のDJは軽妙なトークを繰り広げる。だが、その軽さが逆に、その裏にある圧倒的な重さを予感させる。今年もまた震災が起きた。あなたにも「想像ラジオ」が聴こえているだろうか。

経営学部 教授 竹内綱史

瀬田図書館
瀬田本館 B1 開架
913.6/イセソ
資料番号 31305034484

『イスラエル vs.ユダヤ人:中東版「アパルトヘイト」とハイテク軍事産業』

シルヴァン・シベル[著]、林昌宏[訳]、明石書店、2022年



昨年10月に発生したハマースとのガザ戦争は日本と世界の耳目をイスラエルに向けさせた。著者はユダヤ人だが反シオニスト、つまりイスラエルに反対する立場である。この国が建国から今日にかけていかなることをしてきたのか、とりわけ近年の右傾化現象がいかなる理由でどのように生じているのかを、詳しく知ることができる。この手の類書は数多いが、現代イスラエルを知る上で不可欠の一冊だと言える。

法学部 教授 濱中新吾

瀬田図書館
瀬田本館 1F 開架
302.285/シシイ
資料番号 32205004500

『天災から日本史を読みなおす：先人に学ぶ防災』

磯田道史[著]、中央公論新社、2014 年



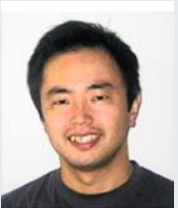
わが国では実に様々な大災害に見舞われ、その都度、大災害から乗り越えてきました。本書では、「歴史」という長いスパンで大災害を俯瞰し、大災害が歴史に与えた影響や、大災害をやり過ぎてきた知恵を、史実をもとに教えてくれます。能登半島地震や南海トラフ地震など、「いま」や「未来」の災害に目がいきがちですが、「歴史」から災害を学ぶことで、次なる大災害を乗り越えるための道標が得られるでしょう。

政策学部 准教授 石原凌河

深草図書館
深草・文庫・新書
081/チユウ/2295
資料番号 11800040090
瀬田図書館
瀬田・本館 1F 文庫
081/チユウ/2295
資料番号 31400030344

『半島を出よ(上・下)』

村上龍[著]、幻冬舎、2005 年



テロリストが、九州・福岡を占拠したら、平和に慣れた日本政府は、そして日本の住民は、どういう対応を取るのか。決して絵空事とは言えない状況を描いた、村上龍渾身のリアリティー感ある長編小説。ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとハマスの戦争は、この小説で描かれた世界が空想の産物だけではないことを証明しているかのようである。村上龍の広範な知識と精緻な描写が楽しめる小説で、ぜひお勧めしたい。

国際学部 教授 松村省一

(上巻)瀬田図書館
瀬田・本館 B1 開架
913.6/ムリハ/1
資料番号 30500030301
(下巻)瀬田図書館
瀬田・本館 B1 開架
913.6/ムリハ/2
資料番号 30500031632

『生きる死者：災害と仏教』

白石凌海[著]、ノンブル社、2017 年



天明三年(1783)に起きた浅間山大噴火によって、その被害は関東一円の広範囲におよび多数の死者が出た。筆者は当時の史料調査をもとに災害と仏教の果たしてきた役割について語る。また著者は 2011 年東日本大震災の直後から被災地に度々出向き、災害と心のケア・精神医学の面からも考察し、最先端医療行為と仏教儀礼とが互いに補充し合いながら進化する必要性を述べる。仏教のみならず、現代の医療技術・心理学・民俗学などへも言及し、一連の追善供養を通して生者と死者が一体となった世界観を読み解く本書をぜひ一度手にしてほしい。

先端理工学部 教授 道元徹心

大宮図書館
大宮・3F 開架図書
285.59/SHI
資料番号 21700011243

『社会保障裁判研究：現場主義・創造的法学による人権保障』

矢嶋里絵、田中明彦、石田道彦、高田清恵、鈴木静[編著]、ミネルヴァ書房、2021 年



医療保険、年金、最低賃金額とも連動する生活保護、保育所など、私たちの生活にとって欠かせないのが社会保障です。現在、社会保障の引下げ、支給拒否が生じています。そのような事態に抗して当事者・弁護士・研究者・支援者の協働により取り組まれた社会保障裁判を、事実・実態・政策動向・裁判による法政策形成機能を踏まえ、研究方法・理論的課題を提示した学術書であり、社会を変える手段を示した社会変革の書でもあります。社会のあり方を模索・展望するうえで一助となる文献です。

社会学部 教授 田中明彦

瀬田図書館
瀬田・本館 1F 開架
364/ヤリシ
資料番号 32105012861

『サカナとヤクザ：暴力団の巨大資金源「密漁ビジネス」を追う』

鈴木智彦[著]、小学館、2018 年



魚が変だ。近年サンマやサケが不漁の一方、北海道でブリの漁獲が増えたりしている。これを海水温の上昇など、海洋環境の変化に求める意見は多い。しかし環境変化のみを強調することは、資源管理のマズさという日本水産業の宿痾にその原因の一端があることを、覆い隠してしまうだろう。そしてこの本はその宿痾が、乱獲、密漁された魚介類が食卓に普通に並ぶほどのものであることを、体を張ったルポで教えてくれる。うまい魚を求める我々消費者にも事の責任はあるのか、考えさせられる内容にもなっている。

農学部 准教授 渡邊洋之

瀬田図書館
瀬田・本館 1F 開架
368.5/ストサ
資料番号 31905036206

『「日本」ってどんな国？：国際比較データで社会が見えてくる』

本田由紀[著]、筑摩書房、2021 年



家族・ジェンダー・学校・友だち・経済・仕事・政治、社会運動・日本と自分というテーマに沿って日本社会の様々な面を世界各国のデータと比較しています。今まで「当たり前」だと思っていたことが、実は「変」だったということに気づかせてくれる 1 冊です。私たちが暮らす日本社会はどんな国なのか、私たちは何をすべきか考えるヒントが満載です。

短期大学部 教授 松田美智子

瀬田図書館
瀬田・本館 1F 文庫
081/チクマ/386
資料番号 32105045792

貴重資料の授業利用について

図書館では、利用者の学習・研究を目的とした貴重資料等の利用について対応していますが、個人で利用される以外に、授業での利用などにも対応しています。ここでは、貴重資料の授業利用について幾つをご紹介します。

その1:文献等の原資料の利用

授業利用で一番多く利用されるのが、文献等の原資料を利用されるケースです。ここでは、文学部市川良文先生の東洋近代史特殊研究 B での利用を一例として紹介します。この科目では、東洋史学研究の海外調査の実際について、講義がなされています。

授業では、海外調査の一例として、仏教伝播のルートを調査した大谷探検隊を取り上げられ、どのように調査されたか説明され、大谷探検隊を派遣した本願寺第 22 代宗主大谷光瑞師が探検隊隊員に宛てた書簡、隊員であった渡邊哲信が使用していた探検の記録日記、探検隊により将来された「李柏尺牘稿」などの実物が紹介されました。



「李柏尺牘稿」(国指定重要文化財)



渡邊哲信隊員「西域旅行記」



大谷光瑞師書簡(吉川小一郎隊員宛)



授業での PowerPoint を用いた各資料の説明



授業での先生による各資料解説

その2:科学分析対象資料として授業で利用

貴重資料等の授業利用は、文献の原資料の利用といった目的だけではなく、科学分析の対象資料として、先端理工学部での授業でも利用されています。丸山敦先生の環境ソリューション工学演習では、生態学に立脚した自然への理解と環境工学的な課題解決アプローチを学修していますが、その一環として、江戸時代の和装本約 360 点の表紙に漉き込まれた毛髪について、非破壊で取り出し、同位体分析機や PIXE 分析機を用いて分析することで、当時の食生活を解析する研究が行われました。



和装本表紙裏(毛髪が漉き込まれている)



同位体分析機



PIXE 分析機



PIXE 分析機

この研究から、江戸時代の都市(江戸、大坂、京都、尾張、近江など)では、時代を通して、主食で粟や稗を食べる割合が減少していったことや、主菜で海産物への依存が増えて行ったこと、鉄・亜鉛・銅などの微量必須元素を現代人よりも多く摂っていたことなどが分かっています。

その3:実習授業での利用

文学部の博物館実習では、実習の一環として、毎年実習展示 12 月展を開催しています。12 月展は、実習生自身が展示テーマを決めて、学内・学外から展示資料を借用して、博物館で開催される展示と同じような形で展示を開催する実習です。今年度は、11 月 29 日(水)~12 月 2 日(土)の間、「天つ星~天体と人のつながり~」のタイトルで、龍谷ミュージアムで開催されました。日常に存在する天体と人々とのつながり、そして人々の目に天体がどのように映っていたかを明らかにすることをテーマとして、図書館が所蔵する蘭学者司馬江漢が作成した星座図である「天球図」をはじめとする貴重資料等 52 点が展示されました。



「天球図」



奈良絵本『竹取物語』



『地球全図略説』

また、12 月展で展示された図書館の資料について、担当教員より、展示借用の準備調査、資料の借用、返却などに於いて、資料取扱いのきめ細かい指導が行われました。



資料返却時の点検作業での指導風景

以上、貴重資料等の授業利用について、簡単ですが幾つか紹介させていただきました。「一度授業で使ってみたい。」「こんなやり方で授業に利用できないだろうか」とお考えの先生方、学生の方がおられましたら、お気軽に閲覧カウンターにお声がけください。図書館宛てのメール(o-lib@ad.ryukokuac.jp)でも構いません。お待ちしております！

瀬田図書館のミニ展観

『来・ぶらり』第 66 号(2022 年 10 月発行)で瀬田図書館のシリーズ展観「〇〇月間」を取り上げました。今回は瀬田図書館のもう一つの月替わりのシリーズ展観「文豪の生誕・没後〇〇周年」について紹介します。

総務省統計局の調査によると、ここ最近の日本国内の出版点数は年間約 7 万点です。毎年多くの方が書籍を出版されますが、作品創作を職業とするいわゆる作家と呼ばれる方はごく一部です。さらに文才・人気と共にきわめて優れ、亡くなった後も読み継がれる作家が文豪といわれています。中には宮沢賢治の様に生前は全くの無名であったのに死後になって評価される方もおられます。このシリーズ展観で取り上げる文豪たちの作品を読んだことはなくても名前ぐらいは聞いたことがあるでしょう。今まで読んだことのなかった文豪、今まで興味の湧かなかったジャンル、今まで手に取ったことのない本も、読んでみれば案外はまってしまいかもしれません。永く多くの方に読み継がれるには、やはり読者を引き付ける魅力が詰まっているのでしょう。文豪の作品は映像化されることも多く、DVD 等の映像資料を所蔵していれば併せて展示しています。敷居が高いと思われる方は、先ず映像資料から一步を踏み出すのも良いかもしれませんね。

生誕〇〇周年なら生まれ月に、没後〇〇周年なら亡くなられた月にミニ展観を実施しています。展示場所は本館地下 1 階、文学のジャンルの書籍を配架している書架のすぐ近くです。下表がその展観リストです。この記事では 2023 年実施の中から 4 つをピックアップして紹介します。図書館ホームページのお知らせ欄には実施済みのミニ展観の内容も残っていますし、終了後は Web 書棚機能を活用して展示内容を再現しています。各お知らせページの下部に「展示リストはここをクリック!」を設けていますので、そこからご覧ください。

2023 年		2024 年予定	
1 月	池波正太郎生誕 100 周年	1 月	山本有三没後 50 周年
2 月	志賀直哉生誕 140 周年	2 月	直木三十五没後 90 周年
3 月	遠藤周作生誕 100 周年	3 月	安部公房生誕 100 周年
4 月	金子みすゞ生誕 120 周年	4 月	シェイクスピア生誕 460 周年
5 月	寺山修司没後 40 周年	5 月	相田みつを生誕 100 周年
6 月	山本周五郎生誕 120 周年	6 月	竹山道雄没後 40 周年
7 月	新美南吉生誕 110 周年	7 月	サン＝テグジュペリ没後 80 周年
8 月	司馬遼太郎生誕 100 周年	8 月	いわさきちひろ没後 50 周年
9 月	宮沢賢治没後 90 周年	9 月	小泉八雲没後 120 周年
10 月	織田作之助生誕 110 周年	10 月	灰谷健次郎生誕 90 周年
11 月	アルベール＝カミュ生誕 110 周年	11 月	山崎豊子生誕 100 周年
12 月	ファール生誕 200 周年	12 月	宮尾登美子没後 10 周年

※2024 年分について、テーマを変更することもあります。

Topic in Seta

大津市立瀬田中学校では「キャリア教育」の一環として「瀬田中チャレンジウィーク」という職業体験授業が 2 年生を対象に行われています。コロナ禍の 3 年間、中止されていましたが、2023 年から再開されました。その実習先として龍谷大学瀬田図書館も 2 名の生徒さんを受け入れ、11 月 28 日から 30 日までの 3 日間、貸出返却のカウンター業務をはじめ、レファレンス、雑誌の受入れ、傷んだ図書の修理等々の様々な業務を体験してもらいました。最終日が月末だったことから、ミニ展観の入替えやホームページのお知らせページの作成にもチャレンジしてもらいました。実は 12 月のミニ展観に取り上げる文豪は当初別の人物を予定していたのですが、中学生にも馴染みがある「ファール」に急遽変更しました。どの文豪を取り上げても、すぐに多彩な資料が揃えられる、これが龍谷大学図書館の強みの一つではないでしょうか。



池波正太郎生誕 100 周年

2023 年は池波正太郎生誕 100 周年にあたります。池波正太郎と言われてピンとこない方も「鬼平犯科帳」や「必殺仕掛人」なら聞いたことがあるのではないのでしょうか。映画やテレビでシリーズ化され人気を博し、現在でもコミック化された新刊が書店やコンビニに並んでいます。

1923(大正 12)年 1 月 25 日、東京に生まれ、亡くなられたのは 1990(平成 2)年 5 月 3 日。小学生の頃からチャンバラ映画や小説に没頭し、家庭の事情で奉公に出てからも給料を読書・映画・観劇・旅行に注ぎ込み、後の執筆作品の素地が作られたと思われます。戦後、長谷川伸に師事し、創作した戯曲が多数上演される一方で、1960(昭和 35)年に『錯乱』で第 43 回直木賞、1986(昭和 61)年に紫綬褒章を受賞。その他の代表作は『剣客商売』や『雲霧仁左衛門』など。仕掛人シリーズの『殺しの四人』など英訳された作品もあります。時代小説だけでなく「食」に関する造詣も深く、エッセイなども多数執筆されています。

ちなみに 2021(令和 3)年の第 166 回直木賞受賞の今村翔吾さん(大津市在住)は小学生の頃に読んだ池波正太郎の長編小説『真田太平記』が「読書の入口」だったと語っておられます。生誕 100 周年を契機に、池波正太郎の世界に触れてみてはいかがでしょうか。



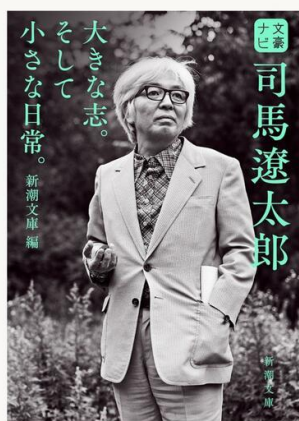
金子みすゞ生誕 120 周年

2023 年 4 月 1 日 - 4 月 29 日

本館 B1 階 展観 D (新館側)

金子みすゞ生誕 120 周年

2023 年は金子みすゞ(1903 年 4 月 11 日 ~ 1930 年 3 月 10 日)生誕 120 周年にあたります。1923 年(大正 12 年)20 歳の時に「金子みすゞ」というペンネームで童謡を書き始め雑誌「童話」「婦人クラブ」「婦人画報」「金の星」に投稿。才能を認められ「童謡詩人会」への入会を認められたみすゞ。一見、順風満帆な人生に感じますが、実は 3 歳の時に父親を不慮の事故で亡くし、みすゞが結婚した夫にも問題がありうまく行かず離婚。夫との間にもうけた 1 人娘を自分の手元で育てたいと懇願するも夫に親権を強硬に要求され、1930 年(昭和 4 年)3 月 10 日 26 歳の短い生涯を閉じました。そんな金子みすゞの詩集の原点は「自然とともに生き、小さな命を慈しむ思い、いのちなきものへの優しいまなざし」と言われています。小学校の国語の教科書に掲載されている「わたしと小鳥とすずと」から現在の小学生にも金子みすゞの思いが伝わっているのではないのでしょうか。



司馬遼太郎生誕 100 周年

2023 年 8 月 1 日 - 8 月 31 日

本館 B1 階 展観 D (新館側)

司馬遼太郎生誕 100 周年

2023 年は司馬遼太郎(1923 年 8 月 7 日 ~ 1996 年 2 月 12 日)生誕 100 周年にあたります。司馬遼太郎は歴史小説界の巨星と称されており、戦国・幕末・明治を舞台とした歴史小説を数多く執筆し、1958 年から 1959 年に宗教専門誌「中外日報」で連載された「梟の城」で直木賞を受賞しています。司馬遼太郎の歴史小説は日本史の出来事や人物を題材にし、切れのいい高揚感のある文体、分かりやすく明快なキャラクター造型、ユーモアのある語り口等で歴史小説に新風を巻き起こしたのです。今なお続く NHK の大河ドラマでもっとも多くの原作を提供しているのも司馬遼太郎であると言っても過言ではありません。歴史を愛し歴史の中に素晴らしい友人がいて、2 千年以上の時間の中を生きているようなものだと言っている司馬遼太郎が「二十一世紀に生きる君たちへ」の中では未来について私達に分かりやすく語りかけてくれています。この夏は司馬遼太郎の世界にどっぷり浸るのもいいかもしれません。



ファーブル生誕 200 周年

2023 年はファーブル(1823 年 12 月 21 日 ~ 1915 年 10 月 11 日)生誕 200 周年にあたります。ファーブルといえば『ファーブル昆虫記』、1878 年に第 1 巻を書き上げ、約 30 年の期間をかけて全 10 巻が出版されました。ファーブルらしく本の体裁は論文ではなく語り口調で書かれており、科学書というよりも文学的な読み物として評価を得ました。そのファーブルの根源にあるのが幼少期の経験だと言われています。家が貧しかったこともあり幼少期は両親の元を離れ、自作農をしている祖父の家に預けられます。自然豊かな環境だったため身近に生き物がある事が当たり前で、身近にいる虫に対する無知が始まりでした。自分の知らない虫の世界を観察し、明らかにしていくことがファーブルの原体験です。あまり知られていませんが、ファーブルは数学と物理学の教師でもあり、詩人としても業績を残しています。しかしファーブルの興味の対象は常に生きている虫そのものだったのです。この機会にファーブルの世界に触れてみてはいかがでしょうか。

ライブラリーサポーターのこの1年

2023 年度はコロナ禍も明け、ライブラリーサポーターの活動も従前のような活動が徐々に再開できるようになりました。この1年のライブラリーサポーターの主な活動を振り返ります。

・「ライブラリーサポーター」とは

私たちライブラリーサポーターは、龍谷大学の深草図書館が拠点です。図書館の魅力を発信し、学生や大学関係者に、より一層図書館を利用していただくことを目的に掲げて、日々マイペースに活動をしています。定期的にミーティングを実施し、季節ごとの本の展示や図書館の選書への参加、外部の方と協力してビブリオバトルの運営をお手伝いさせていただきました。本について新しい知識や発見を得られ、楽しい刺激を受けられる活動です。

文学部日本語日本文学科 4年生 碧川穂

・Instagram 運用

龍谷大学図書館やライブラリーサポーターの活動について多くの在学生に知ってもらいたいと考え、Instagram 運営を提案しました。初年度で投稿がスムーズにできなかった事が反省点ですが、季節ごとの本紹介の展示を投稿するたびに僅かながらではありますが、フォローや「いいね」が付き、達成感を味わうことができました。今後も様々な方法で図書館を盛り上げていってほしいです！

URL: <https://www.instagram.com/ru.libsapo/?hl=ja>

アカウント ID: @ru.libsapo



社会学部現代福祉学科 2年生 水野敦司

・ライブラリーサポーター説明会:5月8日(月)

1年生から履修できる「図書館情報学概論」(西尾純子先生・司書課程)の講義前に、3年生のサポーター2人で説明会を行いました。2019 年を最後にコロナ禍で実施していなかった試みです。3年前と比べ制限が緩和され、ライブラリーサポーターの活動の幅も広げたいと考えていました。この機会があったからこそ、今年度は多くの方に入っていただけと思っています。

文学部日本語日本文学科 3年生 近藤真菜

・ライブラリーサポーター任命式:5月29日(月)

5月29日に深草図書館でライブラリーサポーター任命式が行われ、今年度から新しく15名の方が参加してくださいました。

今年は対面での活動もたくさんしていきたいと思います。

文学部日本語日本文学科 3年生 大和田温菜



・春夏展観「ライブラリーサポーターおすすめ本」

6月から行った春夏展観、「ライブラリーサポーターおすすめ本」は、深草図書館ライブラリーサポーターによる今年度最初の事業でした。ライブラリーサポーターが深草図書館にある本の中から「好きな本」「読んでほしい本」などを選び、手描きのポップとともに展示するというものです。小川洋子さんの『博士の愛した数式』、村上春樹さんの『海辺のカフカ』など、計13冊が選ばれました。

設営をするときは、どこにどのように展示すればよりたくさんの人に見ていただけるかを考え、参加者たちで意見を出し合いながら作業を進めました。個性溢れる手描きのポップにはそれぞれイラストやフォントなど様々な工夫がされていて、見ていて楽しかっただけでなく、発見も多かったです。「図書館を利用する方々に図書館や本の素晴らしさを伝えたい」「図書館をより身近に楽しく感じてほしい」というライブラリーサポーターたちの思いが詰まった展示ができたと思います。

文学部英語英米文学科 1年生 山元彩香



・ワークショップ「ジェンダー平等に向けた学校のあり方について考える」:7月3日(月)

2023年7月3日(月)3講時に深草図書館 B1 階のナレッジcommonsにおいてワークショップを開催しました。このワークショップは深草図書館のナレッジcommonsを活用して学びを深めたいと思い企画しました。

テーマを「ジェンダー平等に向けた学校のあり方について考える」として、文学部哲学科教育学専攻の亀口まか教授を講師としてお招きしました。ライブラリーサポーターを含め6名の学生に参加いただきました。はじめに結婚式という社会的場面からジェンダー体制について考えました。次に身近な学校生活でのジェンダーやセクシュアリティの違いを経験から考え、ジェンダー体制と学校との関係を学びました。最後にジェンダー平等な教育・学校に向けて何ができるか実際の例を通して考えました。

参加者から話を聞くと「教育学専攻でもジェンダーについて学ぶ機会がなかったためよい機会になった」とおっしゃっていただけました。学校だけでなく社会でもジェンダー平等を目指すためにも参考になりました。

文学部哲学科 4年生 福山詩織



・留学生交流会:7月14日(金)

留学生(別科生)五人を対象に、日本の文化に触れてもらうべく『短歌・俳句』についてライブラリーサポーターの方から簡単なレクチャー、のちに俳句づくりを楽しんでいただきました。

イベントにおけるサポーターの役割は大きく二つありました。一つ目は「短歌、俳句をレクチャーする」、二つ目は「俳句を作ってもらった際の手伝いをする(コツを教える、ヒントを出す、季語を教えたりなど)。

皆さん俳句や短歌に触れるのは、日本に来て数年、数ヶ月経つとはいえ初めてだったようで、とても新鮮味を感じていました。日本語にまだ不慣れなのか、戸惑い、一首作り上げるのに時間がかかったりしていましたが、一生懸命考えたぶん素晴らしい首が出来上がったようで、皆さん満足した笑顔で授業を終えることができました。

わたしは普段から新古今和歌集を好んで読んだり、身近に触れているのですが、まだまだ「季語」など理解が未熟だった分野を発見でき、わたし自身とても勉強になりました。

今後とも留学生×ライブラリーサポーターのイベントを発案していけるよう、頑張ろうと思います。

国際学部国際文化学科 2年生 片山霞



・オープンキャンパス時の図書館ツアー:8/5(土)、8/27(日)

8月5日(土)、27日(日)に行われた龍谷大学オープンキャンパス内のイベントの一つとして、図書館ツアーを開催しました。わたしたちライブラリーサポーターは、ツアーの案内役・宣伝などの運営を行いました。

参加者の方は、蔵書数の多さに驚かれたり、普段目にする機会が少ない点字新聞や大型図書などを実際に手に取ってみたいという大学図書館を楽しまれています。また、図書館に関すること以外の大学生活に関わる質問などをサポーターにされており、参加者の方はワクワクした様子で話を聞かれています。

参加された方々が、わたしたちライブラリーサポーターの話を興味深そうに聞いてくださったおかげで、だんだんと緊張が解けて楽しく案内することができました。

法学部法律学科 1年生 別所鈴夏



・選書ツアー:8月22日(火)

普段は図書館に入る本を図書館の職員さんが選書しています。学生選書はその「選書」を学生がやろう！(しかも本屋さんで)という企画です。今回、サポーターは選書する側として参加しました。

この選書ツアーの良いところは、ずばり！新しい世界を知ることです！本には様々なジャンルがあります。え、こんなニッチな本も！と思わず驚いてしまうような本もあります。本屋さんに行き、直接多くの本に触れることで大学にはない未開拓のジャンルに出会えます。また選書する側も、どんな本なら親しみを持って読んでくれるだろう、利用者が読みたくなる本は？と自分の推しジャンルをいかに布教するかを考えます。よって、本棚に並ぶ「学生選書」にはその時々々の推しがあるので時代の変化が感じられるのです。

今回、サポーターは本好きだからこそ知っている「推し本」(または今から推したい本)を数多く選書しました。また私自身も気になっていた本や、元々好きで、でも大学図書館には所蔵されていなかった本を選書しました。早く読んでみたいです。

学生選書の魅力と熱量は伝わりましたでしょうか？これを読んだそこの貴方！是非、一度読んでみてください。

文学部哲学科教育学専攻 2年生 櫻井萌乃

・秋冬展観「旅」

ライブラリーサポーターによる「旅」をテーマとした展観が深草図書館1階にて行われました。今回は、6名のサポーターがそれぞれ「旅」にまつわる本を提案し、最終的には15冊の本が集まりました。また、折り紙等を用いて季節にちなんだ飾りを作成するといったことも行いました。展観の準備に参加したサポーターは、本や飾りの配置をどうするかについて悩みに悩みながら作業をしており、唯一その点が少し大変そうでしたが、最終的には素敵な空間を作ることができたと思います。

旅という1つのテーマであっても、テーマと本との結びつけ方は人それぞれであったため、今回の展観を通して様々な「旅」に触れることができたのではないかと思います。以下に、展示された本をいくつか紹介しておきます。

『銀河鉄道の夜』『八月の銀の雪』『上弦の月を喰べる獅子』『世界の天空の城』『ペーターのドイツ鉄道旅行案内』

文学部臨床心理学科 2年生 高木咲



・全国高等学校ビブリオバトル 2023 京都府大会:9月30日(土)

ビブリオバトルとは、発表参加者が読んで面白かった本を紹介し、「どの本が1番読みたくなったか」を基準に投票を行い、「チャンプ本」を決めるという活動のことです。今回の京都府大会では、9校13名の方が参加し、聴衆も含めると約50名になります。当日の運営をライブラリーサポーターが担い、開閉会式の司会や投票用紙の配布などを行いました。

大会では4名が決勝に進み、優勝(チャンプ本)は『カキフライが無いなら来なかった』、2位は『近畿地方のある場所について』になりました。参加者は自分の好きな一節を紹介したり、本の内容を劇のように表現したりなど、各々の方法で発表しており、それぞれの色が出た大変面白い大会となりました。参加者の紹介する本には、私が読んだことが無い本もあり大変興味深かったです。今までの自分だったら手に取らないような本であっても、発表を聞くと「帰りに本屋によって買おう！」という気持ちになりました。



文学部日本語日本文学科 1年生 白埜真子

・図書館総合展オンラインブースツアー:11月13日(月)

図書館総合展とは、「館種を越えた図書館界全体の交流・情報交換の場」「図書館または周辺分野に関するトピック・技術・製品サービス情報について(1年分のまとめ)の役割を担う」「図書館界にくる新しい方々・団体にとってのガイダンスとなる」を方針とした、図書館界最大のコンベンションです。多くの図書館に関わる人や企業が出展しています。

今回は「キハラ」様、「ブレインテック」様、「専門図書館協議会(あなたも使える専門図書館)」様の3団体によるプレゼン及び質疑応答をメインとしたイベントでした。ライブラリーサポーターは、聴講と質疑応答に参加させていただきました。違った角度から図書館業界に携わる人たちの話を聞くことができ、非常に有意義な時間でした。

文学部日本語日本文学科 3年生 近藤真菜

・全国大学ビブリオバトル 2023 関西 A ブロック大会:11月18日(土)

11月18日に、和顔館アクティビティホールにて全国大学ビブリオバトル 2023 関西Aブロック決戦が行われました。サポーターからは参加者として1名、運営として3名が参加しました。

私は今回発表者として参加しましたが、どの発表も本への愛情が伝わり、読みたくなるものばかりでした。それぞれの紹介の仕方にも個性があり、本のジャンルや発表者によって全く違うことに驚かされました。

今回のチャンプ本は、松村真宏著『仕掛学:人を動かすアイデアのつくり方』でした。日常にあふれた人の心を動かすさまざまな仕掛けに驚くこと間違いなしです。ぜひ読んでみてください。

文学部日本語日本文学科 3年生 大和田温菜



・深草図書館クイズラリー:1月15日(月)~19日(金)

年明け初めてのライブラリーサポーター企画イベントとして、1月15日、17日、18日、19日の計4日間、深草図書館で「クイズラリー」を行いました。

「クイズラリー」は、図書館内の資料や場所に関わる内容についてクイズ形式の問題を解いてもらい、正答者には記念品をお渡しするという企画です。

この企画は、学生の皆さんに図書館について、様々な視点から馴染んでいただくことを目的としてライブラリーサポーターが発案・企画いたしました。開催期間中は定期試験が近いにもかかわらず、多くの学生の皆さんが参加してくださり、本当にありがとうございました。

「クイズラリー」の用紙を持っている人とすれ違うだけでとても嬉しかったのですが、実際に解いた問題用紙を持ってきて下さった参加者の方々と接して、この企画に自分も参加できて良かったと実感しました。

図書館や本の魅力をこの機会に少しでも知っていただけたなら幸いです。

文学部歴史学科 2年生 秦タ希菜



・全国中学ビブリオバトル 京都大会:2月3日(土)

深草キャンパス和顔館にて中学ビブリオバトル第一回目となる京都大会が開催されました。近畿1府3県の中学校から15名の参加者が集まり、素晴らしいプレゼンをしていただきました。

今回私たちライブラリーサポーターは参加者の誘導、予選会と決戦会の司会進行、タイムキーパー、投票結果の集計などを行いました。持ち時間を一杯使い本の魅力が最大限伝わるよう尽力した発表者はもちろんのこと、視聴参加者も発表に大きく頷いたり発表を終えた学生に拍手を送ったりするなど、会場全体が終始非常に良い雰囲気でした。どの発表も非常にレベルが高く、身振り手振りを交え、時には会場をどっと沸かせる場面も見られました。真剣な表情で熱の入ったプレゼンを行う発表者の方々は、とても中学生とは思えないくらい輝いていました。

今回参加して下さった方々には3月に瀬田キャンパスで行われる全国大会も是非頑張ってください。

文学部日本語日本文学科 1年生 森優奈

